

病防第120号
平成22年1月20日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第2号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

平成21年度発生予察特殊報第 2 号

平成22年1月20日
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 スイカ退緑えそ病（仮称）
- 2 病原ウイルス ウリ類退緑黄化ウイルス *Cucurbit chlorotic yellows virus*
(CCYV)
- 3 発生作物 スイカ
- 4 発生確認の経過
平成21年に熊本県内のスイカほ場で葉の黄化及びえそ症状が確認され(図1)、新規ウイルスによる病害が疑われた。そこで、生産環境研究所において遺伝子診断(RT-PCR)を行った結果、CCYVが検出された。また、CCYVを保毒したタバココナジラミバイオタイプQを用いた接種試験により症状が再現されたことから、原因がCCYVであることが明らかとなった。
- 5 感染植物
感染が確認されている作物はメロン、キュウリ、スイカである。
また、雑草では、オランダミミナグサ(ナデシコ科)、クワクサ(クワ科)で感染が確認されている。
- 6 病徴
1)初期症状として不鮮明な退緑斑紋(図2)を生じ、退緑斑紋は拡大しながら黄化し、葉脈に緑色部分を残した黄化葉(図3)となる。以上の病徴はメロン及びキュウリと類似している。

2) スイカの病徴はメロンやキュウリと異なり，黄化葉の周辺または葉脈間からえそを生じ（図4），激しい場合は葉が枯死する。

3) 接種試験では、接種20日後から接種より上位の葉に病斑が生じ、生長点方向の葉に進展する。

7 伝染方法

本ウイルスはタバココナジラミバイオタイプ Q 及びバイオタイプ B が媒介（半永続伝搬：ウイルス媒介能力が数時間から数日間持続される）することが確認されている。その他の伝染方法については不明であるが、近縁のクリニウイルスでは経卵伝染，汁液伝染，土壌伝染及び種子伝染しないことが知られている。

8 防除対策

1) 媒介昆虫であるタバココナジラミの施設内への侵入を防止するとともに，施設に侵入した個体は薬剤で防除する。特に，育苗期間から生育初期の感染は被害につながるため，この時期の対策を重視する。

2) 発病した株は伝染源となる。直ちに抜き取りほ場外に持ち出して埋没処分するかビニール袋に入れて完全に枯れるまで密閉処理する。

3) 黄色粘着トラップを施設内に設置してタバココナジラミの早期発見に努める。

4) 施設栽培では，栽培終了時にハウスを密閉処理し，タバココナジラミが施設外に飛び出さないようにする。

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所
（農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係）
担当：加賀山 TEL：096-248-6490



図1 現地発生ほ場（収穫期）



図2 不鮮明な退緑斑紋症状



図3 葉脈に緑色が残る黄化症状



図4 黄化葉に発生したえそ症状